

京交山岳部報

例会・行先	日程・集合	担当者	コース
第2076回★★ 荒島岳(1,524m) 一等三角点	4/20(土) 5:00 壬生集合	岡田 茂久 (790)	京都-福井IC-勝原スキー場…荒島岳…勝原スキー場-福井IC-京都
<p>何度も計画し、何度も中止で恥ずかしながら登頂していません。日帰りでちょっと強行軍ですが是非お付き合い下さい。</p> <p>マイカー山行のため必ず参加申込をして下さい。</p> <p>今年は積雪が多く残雪がまだまだであると予想しています。</p> <p>装備 軽アンゼン, スパッツ, ストック</p> <p>地図 1/5万図 荒島岳</p>			
第2077回★★ 烏帽子山 △512.5	4/20(土) 8:30 壬生出発	大槻 雅弘 (703)	壬生-福知山-小牧-登山口…烏帽子山…梨木峠…談-福知山-壬生
第2078回★★ 立山スキーツアー	4/26(金)~29(月) 26日 22:00 壬生集合	井戸 澄夫 (810)	北陸道-立山駅-室堂…雷鳥沢(小屋2泊) 立山周辺スキー散策-帰路
マイカーで行きます。雷鳥沢で2泊し、周辺をスキーで散策します。			
<p>例会予告★★ 伊豆半島と富士を巡る一等三角点の山旅(達磨山, 万三郎岳, 愛鷹山)</p> <p>月日 5月3日~5日</p> <p>担当 岡田 茂久(790, 822-9190)</p> <p>地図 御殿場, 修善寺, 下田, 伊東(1/5万図)</p> <p>行程</p> <p>[5月3日] 壬生庁舎前発(5:00)=京都東IC=沼津IC=達磨山=天城峠=八丁池(幕営)</p> <p>[5月4日] 天城山八丁池~万三郎岳~八丁池=修善寺=沼津=富士山麓の公営宿舎(泊)</p> <p>[5月5日] 富士山麓の公営宿舎=登山口~愛鷹山~登山口=富士IC=京都東IC</p> <p>*富士山麓の公営宿舎は未決定</p> <p>*行程, 登山対象は変更の可能性あり</p> <p>*詳細は部報5月号(参加申込者には別途詳細連絡)</p> <p>*マイカー山行のため申込先着6名迄</p>			
<p>今月の集会</p> <p>日時 4月10日(水) 18:30</p> <p>場所 厚生会館4F 大教室</p>		<p>企画運営委員会</p> <p>日時 4月18日(木) 18:30</p> <p>場所 厚生会館4F 大教室</p>	



寒さが緩み、春の息吹が確実に感じられるようになってきた。遅かった梅の花もほころび、桜の便りもそろそろといったところである。春の便りとは裏腹に、悲しい便りがやってきた。O. B部員の奥村弘信氏が、筋萎縮性側索硬化症という不治の病で急逝されたのである。新年会で、右肩が上がらず、筋肉の使いすぎだと話しておられたが、2月には入院する事態となり、病状は悪化の一途をたどり、3月14日7時40分に逝去されたのである。全身の筋肉が萎えてしまうという、現代の医学では治すことのできない何十万人に1人という難病だそうである。本人も我々もそのような難病とは知らず、休養をとりリハビリすれば治るだろうぐらいに考えていた。

小生が奥村氏を知ったのは、入部間もなくの頃、奥村氏の退職記念登山に参加した時のことと記憶しており、55歳退職の時代であるから、15年程前である。以来、奥村氏は京交山岳部と京都府山岳連盟の山岳活動を行動の中心として活躍されてきた。奥村氏との山行では、本当にタフな強い人だなあという印象をいつも持っていた。最近では、平成5年に始まった京都一周トレイルのコース整備や運営に中心的な役割を果たしておられ、本人もそれを生きがいにしておられた。東山から始まったトレイルも北山コースを完了し、いよいよ締めくくりの西山コースの整備を進めていたところであった。本人もきっと心残りであったにちがいない。69歳の早すぎる逝去に、喪心から、哀悼の意を表すものである。

(平成8年3月16日記 S. I)

上高地スキートレッキング

岡田茂久

雪の坂巻温泉で露天風呂を楽しみ、厳冬の大正池では素晴らしいダイヤモンドダストを体験、河童橋から徳沢園までのんびりスキートレッキングを楽しみ、白銀の穂高連峰の最高の展望を楽しもうととうこと出かけたが、ちと目論見外れになってしまった。

数年前、上高地に入った時はみんなまだ若かったようだ。当時は沢渡までしか車は入れず、スキーとテントをかついで上高地まで800米の標高差を苦にもせず、凍りついた厳冬期の河童橋で夜中の酒盛りをする余力があった。今回はK嬢が平均年齢を下げてくれたものの、間も無く還暦か還暦はいつだったかなと言う面々である。おまけに最近山から遠ざかり、良いとこどりのトレーニング不足の面々には、前日、乗鞍スキー場で滑りまくった後で、温泉泊まりで装備は比較的軽かったものの、山スキーを担いでの上高地入りは結構こたえたようであった。

予定では朝はゆっくりと出発し、のんびり走って坂巻温泉泊まりであった。しかし、せっかくだからとついつい欲が出て、乗鞍スキー場で半日滑っていこうとうことになった。前夜半に出発、途中、高速道路の事故等もあったりして、ややお疲れ気味ながら、乗鞍スキー場に昼過ぎに到着。雪を見たらいっぺんに若返りをしてしまう。我々のスキーは最近の若者の様に、いっぺん滑ってコーヒータイムでなことはしない。休憩なしでアイスバーンもなんのその、リフト券制限時間1分前というにゲートに飛び込む始末。坂巻温泉の露天風呂で足腰を伸ばした時は、一つ山行きをこなした後の感じであった。

早朝5時に坂巻温泉を出発。満天の星を仰ぎながら、凍てついた道路を釜トンネルへ向かう。みんなには昨夜の夕食の鯉コクは最高の御馳走だったようだ。ところが鯉料理が大の苦手、椀の中のドロリとした鯉の目玉と視線があった途端に食欲半減、おかげで夜も目玉にうなされてよく眠れず頭が重い。おまけにアイスバーンで飛ばされ、したたか打った尻が痛い。みんなも調子が出なくてピッチが上がらない。ようやく釜トンネルの中で朝食とし、シールをセットしてトンネルを抜けると、もう明るくなってしまっていた。ところが出発時には満天の星で今日の天気は約束されていたものと思っていたが、雪も散らつく天気になっている。おまけにシールをセットしたのに道路には雪が無いではないか。建設省の砂防事務所が、ご親切にも除雪してくれたようだ。おかげで大正池の手前までスキーを担ぐ羽目になってしまった。

いささか、うんざりして大正池に到着。流行のスノーシューを装備しているパーティ等、案外と人に合う。軽装で追い抜いていった写真屋さんは、天候不良で早くも引き上げるようだ。工事の中の大正池ホテルの横から、ようやくスキーを履き田代池への散策ルートに入る。

天候は相変わらずで、ダイヤモンドダストは期待できそうもないが、霞む焼岳、鴨が群れる凍

りついた大正池を眺めながら、新雪の林の中を6本のシュプールが、思い思いのルートで伸びていく。ご機嫌である。ようやくここまでスキーを担いできた甲斐があった。スノートレッキングをたっぷり楽しみ田代池で大休止。熱いコーヒーと羊羹が何ともうまい。森の中をあっさりと雪と戯れながら帝国ホテルの横まで来ると、待望の太陽も顔を覗かせてくれた。梓川を対岸に渡り、ウエストンの碑の前では諦めていたダイヤモンドダストを見る。霞沢岳を背景にして幻想的な光景に時間を忘れてしまう。おしどりの姿も見える梓川沿いに河童橋へ、河童橋から望む白銀に鎧う厳冬のジャングルムから奥穂、前穂、明神岳等の峰々の光景は忘れ難った。

河童橋で11時半、梓川沿いに河童橋に向かうころから、御機嫌だった足並みが乱れ、足の痛みを訴える声が聞こえていた。予定では明神池か出来れば徳沢園までと思っていたのだが、今日中に京都まで帰るルートパーティではもう限界である。ゆっくりと昼食とする。帰りはスキーを付けると誰も言い出さなかった。トレールは良く踏まれているものの、スキーをザックにくくりつけての帰り道は足取りが重い。兼用靴での河童橋から坂巻温泉までの道は遠かった。

それでも再び坂巻温泉の露天風呂に体を沈め、痛む足腰が溶ろけ出す頃には、久しぶりにみんなで楽しんだ上高地スキートレッキングの満足感が、じわじわと沸き上がってきた。

【タイムコース】

京都東IC (5:30) = 松本IC (12:00) = 乗鞍高原スキー場 (13:00～16:30) =
坂巻温泉 (15:30)

坂巻温泉 (5:00) - 釜トンネル (5:40～7:10) - 大正池 (7:40) - 河童橋 (11:30～12:15) -
大正池 (13:20) - 坂巻温泉 (14:50～16:00) = 松本IC (17:00) = 京都東IC (22:50)

【参加者】

鷲見敏一 渡辺智生 古市昌三 方山宗子 今井勇一郎 岡田茂久

【第2069回例会】

積雪期指導員研修会・検定会

山岡 昭弘

去る2月9日～12日に南八ヶ岳の赤岳鉱泉小屋をベースに行われた「積雪期指導員研修会・検定会」に参加しましたので、その報告をいたします。

今回、京交山岳部からは、

検定員 …… 吉田さん	}	→ 検定会へ参加
受検者 …… 松田さん		
受講者 …… 私 (山岡)		→ 研修会へ参加

の3名が参加しました。

行きの道中、中央道の雪による交通規制等で、赤岳鉱泉小屋への集合が2時間以上遅れ（仮眠時間も取れなかったらしい?）、また、ある講習会のグループの小屋への帰着が遅くなったりとハプニングつづきの研修会・検定会となりましたが、多少の日程の変更はあったものの、無事、全日程を終えることができました。

今回の日程の概略を下記に示します。

・検定会

2/10	基礎技術検定	(中山乗越手前の右手斜面)
2/11	{	基礎技術検定 (") つづき
		実践検定 (丈三郎尾根～赤岳～地藏尾根の縦走)

・研修会 (講習会)

2/10	{	登攀組・縦走組にそれぞれわかれて研修 (講習)
2/11		

私は、2/10は、増子先生を講師とした初心者コースのアシストとして、南沢～行者小屋～中山乗越～赤岳鉱泉小屋というコースで、講習のお手伝い。そして、小屋に戻った後、増子先生の「アイゼンについて」のお話を聞かせていただきました。

2/11は、池 学氏をリーダーとした縦走組に入り、今まで眺めるだけであった横岳～硫黄岳へと登ってきました。当日は、天気もたいへん良く、立山・後立山連峰の山々、御嶽山がパノラマ写真を見るようにきれいに見え、いつもは肩から上しか姿を見せない富士山もその裾野まで全容を見せてくれていました。ただ、稜線は強風が吹き抜け、所々雪が飛ばされて岩肌が見え、アイゼンワークに慣れていない私にとっては、アイゼンワークの良い練習となりました。石尊稜上部～三叉峰～大権現～奥ノ院～(カニの横ばい)～……と息の抜けない岩稜帯のアイゼン歩行、アイゼンはずした後の横なぐりの強風の中の硫黄岳稜線の歩行と難所続きの行程でしたが、天気の良かったせいもあり、快適な冬山縦走を味わうことができました。稜線最後の赤岩の頭からの急降下は、各自、思い思いの所を尻セードしながら下り、樹林帯の中をひと汗かきながら進んで、約8時間で小屋に戻ってくることができました。

吉田さん、松田さんの検定会も、2/10、2/11と順調に日程をこなしたようで、2/11の夜は、おいしいお酒に浸ることができました。

2/12は、朝一番に松田さんと小屋を出発し、美濃戸口の太陽館で2日間の汗を流し、休憩の

後、ハヶ岳の思い出を胸に帰洛の途につきました。

【参加者】

吉田 武，松田 誠二，山岡 昭弘

【第2072回例会】

古 光 山

三 橋 勉

朝7時すぎに竹田駅をマイカー2台で出発する。大久保バイパスから京奈道路を南進し、木津から旧国道を走って行くと東大寺の大屋根がみえてきた。

久しぶりに鹿が散歩している奈良市内を通過し、奈良教育大の前を通り過ぎてから、奥山ドライブウェイ入口の案内板で左折し、やがて西名阪道路の針インターを横切り、室生村で国道165号の近鉄電車沿いに走り、赤目口から赤目四十八滝の東側の山越え道に入ると積雪があり、峠付近でタイヤチェーンを付けてソロリソロリと走りカブト岳のぐるりを回ってやっとこさ曾爾村に到着した。亀山峠の途中で車をデポし、登山準備をして出発するころには、既に11時を回っていた。本日は6名の参加者があり、雪上ハイクとなる。長尾峠から林道を離れて、植林道に入ったが、一直線の急な登りとなりアイゼンを付けることとする。辺ちゃんのアイゼンの片一方を借りて登りですが、雪でスリップするため、立ち木に捕まりながらの登りとなった。

尾根の稜線に出ると、左前方にピークが2つ見えてきた。右の奥まった方が目指す三角点である。しばらく行くとだんだん視界が開けてきて右後方には俱留尊山がよく見え、その右奥に昭和60年に登った古代太陽の道で縦走した大洞山と尼が岳が見え、南には局ヶ岳と三峰山などが姿を現していた。

手前のピークである後古光山への登りにかかると、さらに急登となりロープが下がっているのをそれを持ってぶら下がったり、立ち木につかまったりで悪戦苦闘の連続であった。一つ目のピークに到着したときは既に1時前になっているので、後続部隊の遅れを考えるとあとのピークの登り返しには、時間的に無理であると判断し、今回は登頂を断念、またの機会にチャレンジすることとし、引き返すことにあいた。

遅い昼食をしてから、帰りは谷川沿いの道路を名張市に出て西名阪をツゲICまで走り、途中にある奈良市指定文化財の南田原磨崖仏があり所により、花崗岩壁面の中央に阿弥陀如来像、左に六地藏菩薩を刻んでいる。と説明してあった。

【参加者】 伊藤潤治, 河村 清, 渡辺智生, 上島夫妻, 三橋 勉

【コース・タイム】 (2月29日)

竹田 7:10 — 亀山峠手前 11:00 ~ 11:15 …… 後古光山 12:30 ~ 13:00 ……

昼食 13:45 ~ 14:15 — 大久保バイパス解散 18:15

【第2071回例会】

蘇武岳スキー登山

大槻 雅 弘

私は、蘇武岳の山行をずい分前から計画していた。それがやっと、今回実現することになった。

「関西とその周辺の山」(昭和53年発行 坂井久光著)には、一等三角点42座の内、その37番目に蘇武岳が「兵庫県山陰地方にあり、スキーのメッカ神鍋山の西南にある …… 冬期は絶好のスキーツアーコース」と紹介されている。また、ひょうご低山遍歴「なつかしの山やま」には、単独行の加藤文太郎氏と島田真之助氏(好日山荘創設者)が、蘇武岳山頂でのスキー姿の写真(昭和7年)が載っていたりして、古くからスキーツアーコースとして親しまれていたことがうかがえる。

だが、今ではその蘇武岳も林道が走り無雪期としては、登山対象として興味がうすれる。そんなわけで、登るならどうしてもスキー登山と思って、今回実行したのである。

2月10日。

京都の町は、早朝から大雪であった。集合場所の壬生車庫も、勿論雪一面、メンバーの井戸、馬淵君は、約束の30分遅れで到着した。もう、この大雪ではこれないかも知れないと、岡田氏と話しているところであった。なんと、馬淵君は草津の家を朝2時半に出て、3時間もかかったという。

4人が集まったものの、この大雪では神鍋まで行けそうにないかも知れないが、取り敢えず西に向って走ろうということになった。

さすが、道中は雪が多かった。でも、心配したものの、なんとか昼前には奥神鍋スキー場へ着くことが出来た。

蘇武岳へは明日登ることにして、まず、テント地の整地と食事を済ませ、昼から稜線まで偵察することにした。

3本のリフトを乗り継いで、稜線まで出たものの、雪がちらつき視界が悪く、残念ながらリフトの係の人に山の様子を尋ねて、下まで滑り降りた。

まだ、日暮まで時間もあるので、スキーで神鍋山へ登ることにした。神鍋へ来て、神鍋山という山へ登る人は少ないだろうし、話のネタにでもと、25,000分の1図をたよりに469mの山頂を目指したのである。

神鍋山は、今はアップ神鍋スキー場と呼ばれている所で、リフトの終点が山頂である。そのスキー場を、シールを利かせ、汗をたらして登ったものの、山頂は特に標識もなく、その上顕著なピークもないし期待外れの山であった。

下りは、スキー場と反対の雑木の間を滑り、テント地へ戻った。

その夜は、雪で囲まれたテントの中熱いナベものを囲んで、ビールと馬淵君持参のワインが心地よく酔いをさそってくれた。いつしか、誰からともなく、シュラフにもぐり込んでいた。

2月11日。快晴

昨夜の雪は止み、天気は予想していた通り回復し、新雪も積もって素晴らしい朝を迎えた。

昨夜、テントの中で朝はゆっくりしようと言っていたので、出発は8時半を過ぎていた。

スキー客に混じって、昨日登った所までリフトに乗り、シールをつけて誰も踏み入れていない雪面にトレースをつけ蘇武岳へスタートを切った。

最初の肩を廻り込んで、鞍部へ出たところで、尾根筋から来た3人パーティーと出合った。内心、今日是我々だけの蘇武岳かと思っていたので、残念であった。結果、我々より先に彼等が先行したので、同じトレースを行くことになった。

地図の日高町と村岡町の町界尾根を採ってピーク1,007mを過ぎたところで昼食とした。蘇武岳まではあと半分の距離である。

このコースは、よく歩かれているのか、ずい分前につけられた蘇武岳への案内がブナの木につけられていた。白い山頂が望めるようになってからは、先行パーティーのコースを離れ稜線より西寄の林道の方へコースを採って、美しい樹林帯と、雪の斜面を見ながら進んだ。その斜面に美しく木々のシルエットが写し出されていた。



雪面に自然のシルエット

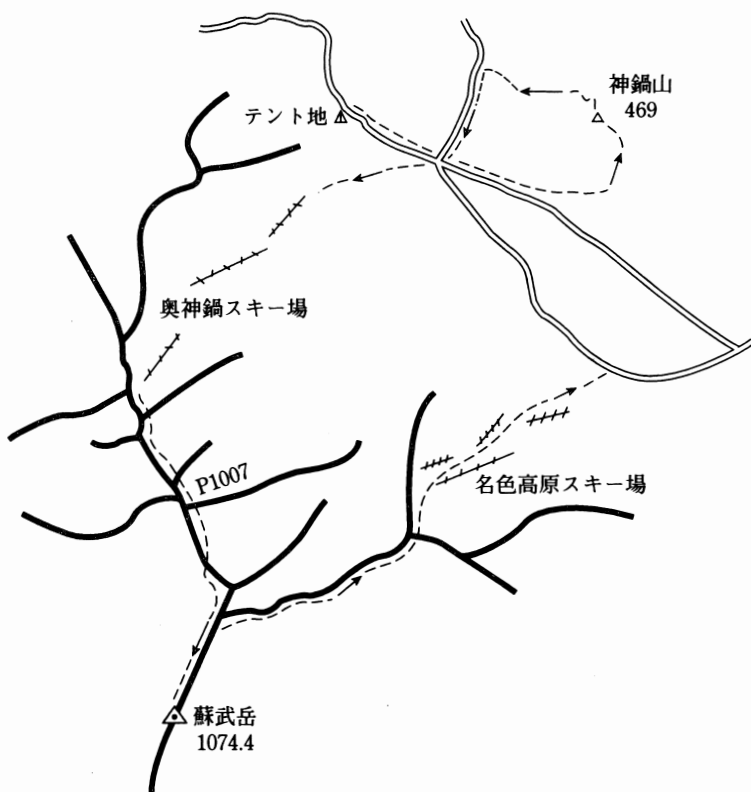
まだ、スキー登山に慣れていない馬淵君が少し遅れ気味ではあったが、全員15時に待望の蘇武岳山頂に立つことが出来た。苦しかった登りも忘れ、笑顔の出た馬淵君を囲み記念写真を撮り1本立てた。

下りは、名色高原スキー場へとコースを採った。このコースは、思ったより、登り下りがあり、結構時間がかかり、スキー場の上部へ出たのが18時、ゲレンデの下へ降り立った時は、もう、日はとっぷりと暮れてしまっていた。

夕方には、出石のソバを食べて、風呂にも入って、20時頃には京都の予定と言っていたのに車の渋滞やら、なんや、かんやで、壬生へは真夜中の2時着。

山は、楽しかったものの、もう少しスケジュールをしっかりと組まねばと、反省した山行であった。

蘇武岳概念図



【参加者】 岡田茂久, 井戸澄夫, 馬淵拓巳, 大槻雅弘

【コース・タイム】

- 2/10 壬生 6:00 - 10:30 神鍋 ... 15:00 神鍋山 ... 16:00 テント
- 2/11 テント 8:50 ... 10:30 稜線 ... 12:30 昼食 13:00 ... 14:35 蘇武岳 15:00 ... 18:00
スキー場 ... 19:30 名色
- 2/12 2:00 壬生

平成7年度京交山岳部総会報告

3月15日(金)18時30分から、ハウス竹田において、平成7年度の京交山岳部の総会を開催しました。

吉田氏の司会で議長は山岡氏を選出し、近藤氏の乾杯の発声後議事にはいりました。

〔出席者〕

O B 近藤, 山村, 坂井, 津田, 横井, 河村, 三橋, 渡辺, 若山
本局 大槻, 井戸, 方山, 竹田, 田村, 山元, 井上, 山岡, 馬淵
梅津 吉田
醍醐 和田
市役所 西尾

◎ 議 題

		(報告担当)
1	平成7年度 山岳部事業報告	(井戸部長)
2	平成7年度 山岳部活動表彰	(井戸部長)
3	平成7年度 会計決算	(山元会計)
4	山岳部規約改正(部費の変更について)	(山元会計)
5	平成8年度 会計予算	(山元会計)
6	名誉部員の選任について	(井戸部長)
7	平成8年度 山岳部年間計画	(吉田副部長)
8	その他	

◎ 質 疑 等

◎ 山岳部規約改正

(質問) 大槻 山岳部の会計は黒字が続いている。前年度決算が赤字になって、はじめて部費の値上げをしてはどうか。

(回答) 井戸 7年度決算の黒字は、6年度の繰越額が多かったためで、単年度収支としては、実質的に赤字である。

岳連会費、部報印紙代の値上げが見込まれてもいる。

◎ 平成8年度予算

(質問) 田村 資金の運用は、もっと利率の高いものがあれば、そこでと考えるが

(回答) 山元 現在、三和銀行のニュー定期で運用しているところだ。

◎ 名誉部員の選任

(質問) 大槻 企画委員会推薦の2名の方以外にも、部に対して功労のあった方がおられると思うが

(回答) 井戸 企画委員会で持ち帰り再検討したい。

1. 平成7年度(1995年度)京交山岳部事業報告

昨年は、年明け早々、阪神・淡路大震災という大災害が発生し、春には経営健全化(リストラ)で121名もの局職員が退職するという内外とも大変な年でした。山岳部の仲間も7名が退職されました。

こうした中で、山岳部の活動は、平成6年に比べて実施例会が32回から42回へ、例会参加延人員が188人から248人(部員外もいれると312人)へかなりの増加を見ました。

最も多数が参加した例会は、4月の退職記念登山で38名でした。往年の隆盛に較ぶべくもありませんが、例会参加者が増加したことは素直に喜ぶたいと思います。

部員数は、今年の1月末で116名であり、そのうち、OB部員が39名を占めております。また、山岳部活動の中で、OB部員が果たす役割も年々増大しております。

昨年で特筆すべきことは、45周年記念事業として、部報の記念特集号を発行したことです。34名の部員の方々が、それぞれの山への思いを綴っています。また、退職者の寸志で新しい名簿を作成することができました。

阪神・淡路大震災へのボランティア活動にも有志部員が参加し、テント(家型)を寄贈したほか、わずかですが、山岳部として義援金を送りました。

厚生会登山は、白山が計画され、山岳部も協力態勢をとりましたが、参加希望者が少なく、結局、中止されました。

全体として感じることは、OBの元気さであります。健康志向の中高年の方たちにとって、山歩きは非常なブームになっているようであります。山岳部としても、中高年の方たちが気軽に参加できるような例会を数多く組んでいく必要があるのではないかと思います。また、若い人たちは、スキーや釣りのついでに山登りもするという人が結構いますし、北アルプスなどの有名な山に興味を示す人も多いため、こまめに誘えば、徐々に、山の良さが分かってくるのではないかと思います。そして、山岳部の運営に、徐々に、若い人が参画してきてくれていることを心強く思っております。

平成7年1月～12月の活動状況

〈部員数〉 116名(平成8年1月末現在)

〈例会〉

第2019回～第2065回まで	計画47回, 実施42回, 中止5回
全例会の延べ参加人員	248人(部員以外を含めると312人) (OB88人, 現役160人)
一例会当たりの平均参加人員	5.9人(部員以外を含めると7.4人)
例会に参加した部員数	53人(全部員の44.9%) (OB23人, 現役30人)

〈集会〉

平成7年1月～12月まで	実施12回
全集会の延べ参加人員	129人(新年会19人, 総会25人を除くと85人)
一集会当たりの平均参加人員	10.8人(同上で8.5人)
集会に参加した部員数	27人

〈投稿〉

平成7年1月～12月号まで	発行12回(4月号は創立45周年特集との合併号)
全部報の延べ投稿数	67稿(内訳: 例会報告43稿, 個人山行24稿)
投稿した部員数	18人
45周年特集号への寄稿者	34人

2. 平成7年山岳部活動表彰

例会参加			
	18	大槻	雅弘
	14	大倉	寛治郎
○	13	岡田	茂久
○	13	方山	宗子
	12	吉田	武
○	11	井戸	澄夫
	10	津田	実
	9	三橋	勉
	9	山岡	昭弘
	7	奥村	弘信
	7	鷺見	敏一
	7	森本	清一
	7	竹田	勉
	6	渡辺	智生
	6	鷺見	壽末子
	6	原田	加津子
	6	松田	誠二

(5回以下省略)

集会参加			
	12	大倉	寛治郎
	10	井戸	澄夫
	9	吉田	武
	9	岡田	茂久
	9	大槻	雅弘
	9	方山	宗子
○	8	奥村	弘信
○	8	渡辺	智生
○	6	三橋	勉
	6	津田	実
	5	山元	誠一
	5	山岡	昭弘
	4	河村	清
	4	坂井	久光
	4	井上	一夫

(3回以下省略)

部報投稿			
	8	吉田	武
○	6	津田	実
	6	大槻	雅弘
○	6	山岡	昭弘
○	5	坂井	久光
	5	岡田	茂久
	5	大倉	寛治郎
	5	井戸	澄夫
	5	服部	正義
	3	三橋	勉
	3	鷺見	敏一
	2	横井	襄二
	2	荒田	又之助
	2	馬淵	拓巳

(1回は省略)

総		会		例会	集会	投稿
○	33	大槻	雅弘	18	9	6
○	31	大倉	寛治郎	14	12	5
○	29	吉田	武	12	9	8
	27	岡田	茂久	13	9	5
	26	井戸	澄夫	11	10	5
	22	津田	実	10	6	6
	22	方山	宗子	13	9	0
	20	山岡	昭弘	9	5	6
	18	三橋	勉	9	6	3
	16	奥村	弘信	7	8	1
	14	渡辺	智生	6	8	0
	13	鷺見	敏一	7	3	3
	12	坂井	久光	3	4	5
	9	山元	誠一	4	5	0
	8	森本	清一	7	1	0
	8	服部	正義	3	0	5
	8	横井	襄二	5	1	2

(7点以下省略)

3. 平成7年度京交山岳部会計決算

平成7年度京交山岳部会計決算				
	収 入	金 額	支 出	金 額
一 般 会 計	部 費	612,000	備品消耗品費	0
	(内訳)			
	○ B	231,000	助 成 金	7,000
	本 局	226,000	会 議 費	25,000
	西 賀 茂	10,000	部 報 代	627,064
	梅 津 条	30,000	通 信 費	47,635
	五 醍 路	10,000	岳 連 会 費	18,000
	醍 大 林	10,000	事 務 費	10,689
	横 錦 条	5,000	慶 弔 費	5,150
	錦 丸	5,000	義 援 金	10,000
	九 烏 丸	10,000	50周年記念事業 積立金	100,000
	鳥 洛 西	25,000	次年度繰越金	112,013
	高 速 田	15,000		
	竹 市 役 所	15,000		
	10,000			
	助 成 金 69,000			
	厚 生 会 60,000			
	組 合 9,000			
	雑 収 入 100,451			
	広 告 料 80,000			
	そ の 他 20,451			
	前年度繰越金 181,100			
	合 計	962,551	合 計	962,551
50積 周立 年金 記念計	積 立 金 (7年度積立金)	100,000	積立金(繰越)	100,000
	合 計	100,000	合 計	100,000
遭積 難立 対金 策会 費計	前年度繰越金 利 息 (税引後1.16%)	2,101,397 24,284	次年度繰越金	2,125,681
	合 計	2,125,681	合 計	2,125,681

4. 山岳部規約改正

京都市交通局山岳部規約の第23条第1項を次のとおり改正する。

第23条（部費）

部員は、部費として年額 5,000円を一括、又は2期に納入するものとする。

を次のとおり改正する。

第23条（部費）

部員は、部費として年額 6,000円を一括、又は2期に納入するものとする。

5. 平成8年度京交山岳部会計予算

平成8年度京交山岳部会計予算				
	収 入	金 額	支 出	金 額
一 般 会 計	部 費	727,500	備品消耗品費	20,000
	(115人*6,000円 = 690,000円)		助 成 金	15,000
	(25人*1,500円 = 37,500円)		会 議 費	25,000
	助 成 金	69,000	部 報 代	681,000
	厚 生 会	60,000	通 信 費	50,000
	組 合	9,000	岳 連 会 費	18,000
	雑 収 入	80,000	事 務 費	23,000
	広 告 料	80,000	50周年記念事業 積 立 金	100,000
	前年度繰越金	112,013	予 備 費	56,513
	合 計	988,513	合 計	988,513
50積 周年金 記念計	積 立 金	100,000	次年度繰越金	200,000
	前年度繰越金	100,000		
	合 計	200,000	合 計	200,000
遭積 難立 対金 策会 費計	前年度繰越金	2,125,681	次年度繰越金	2,136,309
	利 息 (税引後 0.50%)	10,628		
	合 計	2,136,309	合 計	2,136,309

6. 京交山岳部名誉部員の選任について

次の方を名誉部員に選任します。

No. 17 三 橋 勉

No. 18 鷺 見 敏 一

7. 平成8年度京交山岳部年間計画

項目 月	山 行	行 事	岳 連 行 事	備 考
		イ ン ド ア		
4	胴切山（四国の一等三角点） 立山スキー			
5	聖岳・光岳 三本槍（東北の一等三角点） 博士山（東北の一等三角点） 七ヶ嶽（東北の一等三角点）		府民登山大会	
6	蕎麦粒山（静岡） 行者還岳（大峰）			
7	五竜岳・鹿島槍 黒姫山			
8	大倉山 高天ヶ原温泉（黒部源流） 飯豊山	（厚生会登山）		
9	八甲田山 雨飾山 冷水岳（果無山脈） 藤原岳（鈴鹿山脈）		無雪期講習（藤内壁） 全日本登山大会	
10	荒島岳 雲取山（奥多摩） 鳥海山 日本コバ（鈴鹿山脈）		府民登山大会	
11	弥山・八経ヶ岳 法師山・大塔山 三峰山 綿向山（鈴鹿山脈）			
12	木曾駒ヶ岳	納山祭		
1	牛草山	初登山 牛松山 新年会		
2	法恩寺山スキーツアー		積雪期講習（八ヶ岳）	
3	蓮華温泉スキーツアー 御岳山	総会		

例会報告

例会No	目的地	月日	天候	担当者	参加者	記事
2068	上高地 トレッキング	1月27日 ～28日		岡田 茂久	古市 昌三 渡辺 智生 今井勇一郎 方山 宗子	(別稿詳報)
2069	積雪期 指導員研修会	2月9日 ～11日		吉田 武	松田 誠二 山岡 昭弘	(次号報告)
2070	奥美濃 毘沙門岳	(延期) 3月17日		井戸 澄夫		
2071	蘇武岳 スキー登山	2月10日 ～11日		大槻 雅弘	岡田 茂久 井戸 澄夫 馬淵 拓巳	(別稿詳報)
2072	古光山	2月29日		三橋 勉	伊藤 潤治 河村 清 渡辺 智生 上島夫妻	(別稿詳報)
2073	白猪山	3月2日		吉田 武		(延期しました)
2074	日本コバ	3月10日		岡田 茂久		(次号報告)

部員動静

目的地	月日	天候	参加者	記事
長老ヶ岳 スキー登山	2月18日	曇	岡田 茂 大槻 雅弘 方山 宗子 他	何回か登った長老ヶ岳であったが、初めのスキー登山をした。前日の雪が、林道を白く化粧してくれて登り2時間半、下り30分のコース整備をしてくれた。
魚の子山 △552.4m	3月2日	曇	岡田 茂久 大槻 雅弘 F1	3月はいつも仕事で先の予定が立てにくく、前日まで山へ行けそうになかったが、休めるようになり、「近くで行ってない山を」と捜したら、この山が見つかった。前日の雪が10cm程つもり、思っていたより歩きやすく、忠実に途中峠から国境稜線を辿り、三角点へ登った。

訃報

O.B部員で、元京交山岳部副部長の奥村弘信氏が3月14日朝、筋萎縮性側索硬化症による急性呼吸不全のため逝去されました。(満69歳)

奥村氏は、京交山岳部の副部長および企画運営委員・リーダーとして活躍されるとともに、京都府山岳連盟常任理事・京都トレイル委員会委員長として、京交山岳部・京都府山岳連盟の発展に貢献されました。葬儀は16日左京区黒谷金光院において、京都府山岳連盟会長小谷隆一氏を葬儀委員長としてとり行われました。

雑 報

△△△ 2月の企画運営委員会

日 時 2月26日(月) 18時30分から
場 所 厚生会館 4F 大教室
出席者 井戸, 吉田, 山岡, 馬淵
内 容 総会打合せ, 他

△△△ 丹波広域林道計画地 植生観察会

京都府山岳連盟自然保護委員会

すでに皆様ご承知の林道工事ですが、本線は重要(植生)地域の少し下を迂回しますが、枝線一本が横断するとの情報を得ています。そしてすでに「コシキ峠」までは工事が済んでいるようです。たとえ本線が迂回したとしても枝線が横断するので、少なからぬ影響を受けるものと思われまます。今一度つぶさに見たいものと計画致しましたのでご参加下さい。

小雨決行 (問い合わせ 075-761-4756 大杉)

日 時 1996年5月12日
コ ー ス 広河原菅原-衣懸坂-重要地域(石楠花群生地, 台杉群)-原地上ノ町
集合地, 時間 北山通り地下鉄北山駅西(植物園北口前) 7:30
交 通 マイカー利用 参加加盟団体ごとにお願ひします。
申し込み先 4/26までに事務局へ(経営推進室 馬淵 822-9104 内508)
地 図 1/25,000花背, 上弓削, エリアマップ京都北山2
費 用 資料代として一人100円

△△△ 他山岳会の会報 (受贈分)

2 月号 青嶺

3 月号 青嶺, 山友, 京都山岳, 趣味の登山, 一等三角点, 好山好会, 北山

1995年報 跋涉譜

△△△ 住所変更について

本 局 馬 淵 拓 巳

新 住 所 〒 525 滋賀県草津市東矢倉 3 丁目 23 - 18

TEL 0775 (67) 0240

家庭用品 } 総合卸商社
衛生用品 }

日華商事株式会社

本 店 京都市南区上烏羽大物町13番地

☎ 601 電話 (075) 672-6101(代)

FAX (075) 661-7332

八坂運送有限会社

京都市伏見区醍醐新町裏町 24 番地の 4

TEL (075) 571-1108

帆 布 ・ 濾 布
テント ・ シート
雨 合 羽

木村工業有限会社

京都市中京区ミブ車庫前

TEL 801-5331 (代)

西大路営業所

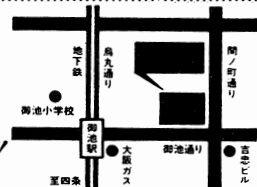
下京区西大路七条下ル

TEL 321-0251

登山とアウトドア専門店

今、アウトドア派大集合!!

- 登山用品はもちろん、
注目のスポーツ
カヌーをはじめ、
ひと味違う充実の
品揃えは必見のもの!!



LODGE 株式会社 **ロッジ**

営業時間 AM10:00~PM9:00 <年中無休>

京都市中京区御池通高倉西入(千代田生命京都御池ビル2F)

TEL. 075(255)0595 FAX. 075(255)6376

京都で唯一の山の専門店

Now Outdoor sports

ハイキング&キャンピング・クライミング
アウトドアウェア・US製出品
ポータブルカフト用品



〒604 京都市中京区二条通河原町西入
TEL 075(258)-0548
営業時間 AM10:00~PM8:00 薪燵火曜定休
(株) スーパー・ソ・コニシ

葦よしのすい髓のせから天井を覗く…⑭

桜の季節になって、本居宣長の「敷島の倭ごころを人とはば 朝日ににほふ山さくら花」の歌を思い浮かべるのはかなりの年配者だ。戦前の教育ではよくこの歌がひかれ、桜花の散るいさぎよさを叩きこまれたものだ。敷島・大和・朝日は煙草名にも使用され、漱石の小説にも登場する。煙草といえば、今は殆どが横文字になり美しい和語が姿を消しているのは寂しいかぎりだ。

制作 株式会社 北斗プリント社
〇七五―七九一―六二二五



株式会社

小林地図専門店

〒600 京都市下京区不明門通六条下る西側
(烏丸通六条東 1筋目下る) ☎ (075) 351-6598

地下鉄：五条駅 5番出口・市バス：烏丸六条下車

建設省国土地理院発行地図販売特約代理店
国土地理院空中写真(カラー・白黒)取次
通産省地質調査所発行各種地質図取扱店
各種地図製作並びに印刷
地形図は、20万・5万・2万5千とも全国を常備しております。

結婚引出物・内祝・開店記念品・粗品
仏事用お返し品・お中元・お歳暮用品

贈答品総合センター

厚生会指定

サンコークラフト

西島輝雄

左・川端丸太町下る下堤町88

TEL (075) 771-3442

平成8年4月1日

京都市中京区壬生坊城町48

京都市交通局内

京交山岳部